

10. 企画山行「奥多摩避難小屋巡り」

1) 日程

1985年02月16日～02月17日(1泊2日)

2) コース

第1日 奥多摩駅—六ツ石山巻道

第2日 六ツ石山巻道—鷹ノ巣山—鷹ノ巣山避難小屋—鷹ノ巣駅

3) 記録

冬山の素晴らしさには格別なものがある。音もなく降り続く雪の中、水墨画の世界に踏み込んでしまったかと錯覚するほどの静けさは、カラフルなヤッケやザックの色さえもモノトーンにしてしまうほどだ。また幸運にも晴天に巡り合えた時の目を開けていられないほどの白銀の輝き、群青の空、空気の透明感などその素晴らしさは例えようもない。そんな数えきれないほどの冬山の素晴らしさの中でも、あのピーンと張りつめたような空気感が僕は一番好きだ。

とは言えそんな素晴らしい冬山は、僕のような軟弱な人間を容易には寄せ付けないう厳しさがある。そこで思いついたのが、そんな自分でも味わえる冬山気分をということで、良〜く知っている奥多摩で雪の多い3月に、荷物をなるべく少なくできるように、奥多摩に完備している避難小屋を利用して冬山気分を満喫しようという、題して「冬の奥多摩避難小屋巡り」だった。

コースは、奥多摩駅から石尾根を辿って鷹ノ巣避難小屋で1泊目、七ツ石を越え雲取山の山頂避難小屋で2泊目、長沢背稜を回って新しくできた一杯水避難小屋で3泊目、そして川苔山から本仁田山を経て奥多摩駅という、3泊4日で奥多摩をぐるりと一周する完璧な計画だ。そしてこの計画の実行のために、代休を2日貯め雪のありそうな時期を見計らって実行したのですが……。

02月16日 今日鷹ノ巣山までだと思い、いつもよりゆっくり家を出る。しかし立川で奥多摩行きを1時間も待つことになってしまった。考えてみれば今日は平日でいつもの休日とは電車の時刻が違っていただけなのに時刻表も確かめていなかったのだ。とは言え心の中には、まだ「今日は鷹ノ巣山までだ」という気持ちがあった。

奥多摩駅に着き、駅前のいつもの立ち食いソバやで奥多摩ソバを一杯食べて出発。駅前を左に、交番の前を右に行き橋を渡り民家の間を抜けて近道して林道へ。標識に従い神社の境内を抜けて再び林道へ。登山道の入り口には、相変わらず通行不能の看板があり、通れなくもないのだが一応もう少し先まで林道を行き、橋が崩れた箇所を迂回して登山道に入る。ところどころ雪を見ながら登っていくが、見慣れたはずの

道がどうも感じが違う。考えてみるとこの道は何十回下ってきたか忘れてしまったほどだったが、登るのは初めてだった。樹林の中の道を登るにつれ真っ白になっていく。量は多くないのだが、一面に雪が残っており、気温が低いのか固まっておらずサラサラしているので思いのほか滑るようだ。薄明りの杉の植樹林を登っていくと、今度は北側の斜面を巻くようになり、雑木林の道となって雪も結構深く、再び尾根筋に出て伐採で展望の開けた分岐点に着く。ここで初めて一休みするが、どうも遅く家を出たせいか時間のたつのが早い気がしてしょうがない。

ここからは、登山道の下側の斜面が数年前に全て伐採されしまい明るくなった。その道を左へ回り込むように緩やかに登っていき、折り返して今度は昔のままの薄暗い杉木立の中を行き、少し開けた雪の斜面をまっすぐ登るようになる。雪で登り難い結構急な坂を登っていくとまばらな雑木林となり、六ツ石山頂への分岐のある少々平らな所に出た。ここまで来てまずいなと思う。もう陽が陰り始めており、予想外に時間がかかっている。まあ暗くなるまで行ってみようと思い、六ツ石の巻道に入る。入った途端これはだめだと思う。踏み跡が全くなく一歩ごとに膝まで埋まるラッセルだ。気は焦るが全く進まない。30分以上歩いて六ツ石が巻けない。とうとう暗くなり始めたところで、真っ暗になる前にビバークすることにする。適当な場所を選んで雪を踏み固め、木を利用してツェルトを貼る。予想外の事態に少々焦ったが、夕食を食べ終わると気分も落ち着いて、食料も装備も十分だしのんびり行けばいいやということで、明日に備えてとりあえず寝ることにした。

02月17日 目を覚ますと体中がだるい。昨日は思った以上に疲れたのだろう。山の影で暗いのだろうと思っていたのだが、どうも天気がよくなさそうで雪もパラついている。夜は寒くはなかったのだが、その代わりシュラフが濡れてしまったようだ。とにかく鷹ノ巣まで行こうと思い出発する。

道は昨日の続きよろしく膝までのラッセルだ。遅々とした歩みだが、六ツ石の巻道を終え少し登って尾根沿いのほぼ平らな道を行き、尾根通しと巻道の分岐点に着く。ここまで来るだけで相当な時間がかかっており、尾根通しは諦めて巻道へ。雪が本格的に降り出す。積雪は平均して30cm以上はありそうだ。歩き始めて2時間ほどして後から来た人に追いつかれる。彼も昨夜はビバークしたとのこと。ここからは、暗黙の了解のもと、お互い歩き疲れると先頭をゆずる。ほとんど一歩一歩ツボ足状態だが、やはり後から歩く方がそれなりに楽なようだ。それでも歩みは遅く、降りしきる雪の中山頂に着いたのは、歩き始めて5時間もたっていた。

七ツ石小屋まで行くという彼と別れて、一先ず鷹ノ巣の避難小屋へ。昼食をとりながら今後のことを考える。雪はすでに本格的に降り始めており、とてもこの状態では雲取までは難しいだろうということから、ここで一泊して明日雲取へとも思う。しかし今回の山行は、元々のんびり冬山気分を味わいながら避難小屋を泊まり歩こうなどとい

う甘い考えだったこともあり、昨日のビバークですっかり出ばなをくじかれて、とてもここにのんびり一泊という気分にもなれず、結局このまま下山することした。

意気消沈して鷹ノ巣駅へ下ってゆくが、里に近づいても一向に雪は降りやまず、ますます降りが強くなっていくようだった。里に下り着いた頃にはすっかり薄暗くなっており、街灯が点々とついている家並の中をトボトボ歩いていくと、家の前の雪かきをしていたお婆さんと目が合い、「ご苦労様」と声をかけられる。「こんばんは」とあいさつを返したものの、「ご苦労様」という言葉がしみじみと心に沁みたのでした。

そんなわけで当初の計画は、全くの計画倒れに終わってしまい、入社すると「休みじゃなかったの？」などとからかわれるみっともない結果になってしまいましたが、再度トライしてみたいとは思っています。ちなみにこの日の雪は一晩降り続け、翌朝の午前中青梅線は運休となりました。

4)コースタイム

年月日	時間		場所	備考
1985.02.16	13:32	発	奥多摩駅	
	14:30	通過	林道終	
	16:06	着	レスト	パンを2個食べる
	16:20	発		
	17:12	通過	六ツ石分岐	踏跡なく、膝までラッセル
	17:45	着	六ツ石巻道	暗くなりビバーク
1985.02.17	05:15	起床		
	07:03	発		
	08:42	通過	尾根分岐	
	10:05	着	レスト	
	10:12	発		
	10:35	通過	尾根分岐	
	11:25	着	鷹ノ巣山山頂	
	11:30	発		
	11:50	着	避難小屋	
	13:00	発		
	14:00	通過	奥部落	
	14:30	通過	峰谷	
	15:20	通過	峰谷橋	
	15:40	着	鷹ノ巣駅	